

厚生労働省（中部ブロック）
労働者協同組合法周知フォーラム

みんなで力を合わせて
壁のない社会をつくろう

愛知県高齢者生活協同組合
ケアセンターほみ 上江洲恵子

2022.11.6

来日し工場での失業から、協同組合で働く

- 1990年入管法の改正で日系二世・三世が「定住者」等の資格で在留が許可。
- 静岡や沖縄を経て、豊田市の自動車工場で働く。
- 産休後、リーマンショックで会社に戻れず。
- ハローワークの講座で、介護を学ぶ。
- 日本語及び専門用語の理解に苦勞する。
- 講座運営する愛知県高齢者生活協同組合から保見団地で訪問介護を立ち上げる打診をもらう。



冒険のはじまり

ケアセンターほみの発展と地域づくり

- ケアセンターほみの仲間が増え、さらに多くの介護が必要な方が集まる。
- 外国人と日本人のスタッフがともに働く。
- 様々な国籍の利用者に異なる言語でケアを提供。
- 高齢者介護から始め、日系人の障害児の問題を知り5年後には放課後の居場所を作る。
- ケアに留まらず、外国人と日本人が地域で一緒に暮らせるよう、お祭りも開催。



協同労働による経営意識の高まり

- 協同組合を学び、協同労働の働き方を理解。
- 毎月の会議で、利用者の状況を共有し、事業所の利益や損失や経費もみんなで考えるように。
- 事業を安定させ、給与を増やし、全員で豊かになることが共通の目標に。
- 工場と違う、社長がいない、お金が一部の人にしかいかないと違う、自分たちの努力の利益を皆で平等に分けられる協同組合。



介護講座による仲間づくりと再開

- 通訳付き介護講座で様々な国籍の介護士が卒業。
- 現在、19名のケアセンターほみのスタッフ。
うち、9割が介護講座の卒業生。
- コロナで講座中止も、工場の仕事が減少し、
講座ニーズが高まり再開。



学生から、より密接な地域との関りへ

- 大学生らによるボランティアプロジェクト。
 - 外国人の子どもや大人に日本語、勉強、文化をケアセンターほみで教える。
 - 地域コミュニティと、より密接に関わるように。
 - 学生たちが新たな生活支援の仕事をはじめ。
 - 学生たちも協同労働で話し合いでサービス開始。
- ⇒地域の教育、育ち、言語、仕事、年齢、習慣、文化、貧困など改善することが不可能でない！



新たな労働者協同組合づくりへ

- デカセギ（出稼ぎ）者の高齢化が問題に。
- 無年金など、高齢でも働き続ける必要性。
- 学生と一緒に生活支援の仕事がはじまる。
- 労働者協同組合法が成立！
- 外国人、高齢者、若者らが、一緒に働ける
ワーカーズコープづくりへ。

